令和７年度
劇場・音楽堂等機能強化推進事業
成果報告書
①（基礎データ・公演事業の実績値等）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人八尾市文化振興事業団
施設名	八尾市文化会館（プリズムホール）
内定額	9,876　（千円）

（1）令和7年度　助成対象事業一覧

※実績報告書様式13－2(2)事業内容 から転記してください。
　複数の事業類型（公演・人材・普及）が助成対象となっている場合は、それぞれすべて転記してください。

事業番号	事　　業　　名	実施日程	実施会場
公-01	地域の魅力を活かした本物の作品の創造・発信事業1 八尾が世界に誇る わがまちオペラ かわち歌しばい『美男におわす八尾地蔵』/落語『地獄八景亡者戯』桂吉弥	令和7年8月24日（日）	八尾市文化会館　大ホール
公-02	地域の魅力を活かした本物の作品の創造・発信事業2　高安薪能特別公演「高安」 ～夕陽と炎が揺蕩(たゆた)う、能楽の幻想世界～	令和7年10月13日（月・祝）	玉祖神社
公-03	子どもの豊かな育ちを促進する作品の創造・発信および体験格差解消事業1 プロデビュー50周年記念in八尾 大谷康子ヴァイオリンリサイタル with仲道祐子＆相愛ジュニアオーケストラ〈音楽は世界の共通語〉～未来に伝えたい音楽のチカラ～	令和7年9月23日（火・祝）	八尾市文化会館　大ホール
公-04	子どもの豊かな育ちを促進する作品の創造・発信および体験格差解消事業2　子どものための鑑賞公演(学校招待及び一般公演)人形劇団クラルテ「いえでででんしゃ」	令和8年2月13日（金）・14日（土）	八尾市文化会館　小ホール
公-05	日本トップレベルの芸術団体との連携事業1　地域拠点契約事業 文学座公演「華岡青洲の妻」	令和7年11月9日（日）	八尾市文化会館　小ホール
公-06	日本トップレベルの芸術団体との連携事業2　地域拠点契約事業 大阪フィルハーモニー交響楽団八尾演奏会　ずっと・もっと～これからも聴きたい音楽愛・地域愛	令和8年2月8日（日）	八尾市文化会館　大ホール
人-01	感動をもたらす人材の養成事業1 プリズムサマーワークショップ　ステージテクニカルワークショップ	令和7年8月19日（火）・20日（水）	八尾市文化会館　大ホール
人-02	感動をもたらす人材の養成事業2 大学連携事業～プリズム発・芸術文化で未来にはばたく～	令和7年8月7日（金）～令和8年1月18日（日）	八尾市文化会館大・小ホール
人-03	感動をもたらす人材の養成事業3 プリズム市民サポーター活動～つながり、交流、生き生き活動！プリズムパートナー～	通年	八尾市文化会館大ホール他
人-04	感動をもたらす人材の養成事業4 アートコーディネーター養成講座	令和7年4月26日（土）～令和8年3月8日（日）	八尾市文化会館　他
普-01	舞台の感動を普及・啓発事業1　地域拠点契約事業　文学座ワークショップ ①日本の古き良き美しい所作　②大人の音読カフェ	令和7年8月23日(土)	八尾市文化会館 研修室
普-02	舞台の感動を普及・啓発事業2　創作オペラかわち歌しばい「美男におわす八尾地蔵」プレ企画 オペラ稽古場見学会&新旧キャスト交代セレモニープチコンサート	中止	ー
普-03	子どもの素敵な芸術体験による社会課題の解消に向けた事業1 学校に届けて体験格差解消に向ける芸術の鑑賞・体験事業	令和7年6月20日(金)～12月12日(金)	八尾市内各小・中学校
普-04	子どもの素敵な芸術体験による社会課題の解消に向けた事業2 プリズムサマーワークショップ　バックステージ・ツアー①劇場探検コース　②舞台体験コース	令和7年8月15日（土）・20日（木）	八尾市文化会館　大ホール
普-05	子どもの素敵な芸術体験による社会課題の解消に向けた事業3 プリズムサマーワークショップ 八尾出身・文楽人形遣い　人間国宝・吉田玉男が贈る　文楽の世界に飛び込んでみよう！	令和7年8月13日（木）	八尾市文化会館　展示室
普-06	誰もが芸術文化につながり交流できる場の創出・共生社会の実現事業 リズム@プリズム　車いすの人も、ベビーカーの赤ちゃんも、日本語を知らない人もご一緒に！「誰でも楽しくエクササイズ」 ワークショップ＆発表パフォーマンス	令和7年11月22日（土）～令和8年3月15日（日）	八尾市文化会館　エントランスロビー
普-07	地元の魅力を次世代へ普及事業1 吹奏楽クリニック～頑張るキミにエールを！～	通年	八尾市内各中学校
普-08	地元の魅力を次世代へ普及事業2 こども河内音頭講座　①唄・楽器の講習会　②踊り方講習会	令和7年4月13日（日）～令和8年3月8日（日）	八尾市文化会館練習室　他
普-09	地元の魅力の発見・発信事業1 ①第37回八尾市吹奏楽フェスティバル	2025年7月20日（日）	八尾市文化会館 大ホール
普-10	地元の魅力の発見・発信事業2　河内音頭やおフェスタ ～令和の大改造！聴いて！踊って！やってみて！地元の伝統芸能を楽しもう！～	令和8年3月15日（日）	八尾市文化会館 大ホール

（2）〔基礎データ〕

※　交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※　実施中止分を含まない実績値を記入してください。

【1. 事業本数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
年間事業本数（※1）	主催事業	60	55	50
	公演事業	8	9	7
	（内、本助成対象事業本数）	7	8	6
	人材養成事業	11	8	4
	（内、本助成対象事業本数）	5	5	4
	普及啓発事業	36	33	33
	（内、本助成対象事業本数）	11	11	10
	共生社会事業			
	（内、本助成対象事業本数）			
	その他　内容：　基本計画推進事業など	5	5	6

※1　事業の延べ実施回数ではなく、事業本数を記入してください。

【2. 貸館日数】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
貸館日数	ホールごとの貸館日数	376	379	402
	ホール名：大ホール　座席数：1317	170	173	189
	ホール名：小ホール　座席数：330	206	206	213
	ホール名：ー　座席数：ー			
	ホール名：ー　座席数：ー			
	ホール名：ー　座席数：ー			

【3. 施設利用者数（事業利用者数）・開館日数・利用可能日数・利用日数・利用率】

項　　目		令和5年度	令和6年度	令和7年度
施設利用者数（※2）	主催事業入場者・参加者数	16,079	31,407	29,827
	公演事業	3,407	5,476	4,373
	人材養成事業	3,708	2,563	1,144
	普及啓発事業	6,557	13,101	16,911
	共生社会事業			
	その他　内容：基本計画推進事業など	2,407	10,267	7,399
	貸館事業入場者・参加者数	187,457	196,831	228,687
	その他　内容：ー	0	0	0
	計	203,536	228,238	258,514
開館日数		309	307	309
施設の利用可能日数（＝365－（保守点検日数+休館日数））		309	307	309
施設の利用日数		309	307	309
施設の利用率(%)（＝利用日数/利用可能日数）		100.0%	100.0%	100.0%

備考	

※2　実演芸術の公演等を鑑賞する者、ワークショップ等に参加する者、その他の劇場・音楽堂等の事業を利用する者の延べ人数を記入してください。
劇場・音楽堂等のスタッフや、併設施設（美術館、図書館等）のみへの入場者、事業関係者（出演者、指導者、スタッフ等）は除きます。
レジデントカンパニー・アーティストの稽古利用等の場合は「その他」に記入してください。

【4. 公演事業データ】

※ 交付申請書から転記してください。令和7年度について見込み等の暫定値だったものは、確定した数値を記入してください。

※ 実施中止分を含まない実績値を記入してください。

事業種別		事業本数	公演回数	入場者・参加者数	事業本数内訳						
					演劇	音楽	舞踊	伝統芸能	演芸	総合（※3）	その他
令和5年度	主催公演（※1）	8	10	3,407	1	3	2	2	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	7	15	6,131	3	2	0	2	0	0	0
	貸館公演	360	387	112,934	4	125	27	2	3	8	191
	計	375	412	122,472							
令和6年度	主催公演（※1）	9	14	5,476	2	3	0	3	0	0	1
	共催・提携公演（※2）	10	16	7,945	2	7	0	1	0	0	0
	貸館公演	267	305	108,820	2	103	24	2	4	9	123
	計	286	335	122,241							
令和7年度	主催公演（※1）	7	9	4,373	2	4	0	1	0	0	0
	共催・提携公演（※2）	4	9	6,002	2	1	0	1	0	0	0
	貸館公演	314	356	131,962	6	137	41	3	1	5	121
	計	325	374	142,337							

※1 名義主催は除きます。
※2 名義共催を含みます。
※3 「総合」には、フェスティバル等における事業数を記入してください。

（3）各公演事業における実績値 及び 評価項目「創造性・企画性」に関する評価指標・目標（値）・実績（値）

・公演事業について、助成対象事業ごとに目標（値）と実績（値）を記入してください。
・入場者数・入場者率（目標値）は**「交付申請書」**から転記してください。
・有料入場者数・有料入場者率（目標値）および評価指標・目標（値）は**「評価補助シート」**から転記してください。

※有料入場者率（%）の計算方法＝**有料入場者数÷公演の設定席数（実績値）合計×100**

事業番号	事業名		入場者数	入場者率	評価指標	目標（値）	実績（値）
公-01	地域の魅力を活かした本物の作品の創造・発信事業1 八尾が世界に誇る わがまちオペラ かわち歌しばい『美男におわす八尾地蔵』/落語『地獄八景亡者戯』桂吉弥	目標値	824	75.3%	アンケートより公演推奨度	60%以上	NPSスコア／45.2
		実績値	1,021	92.2%			
公-02	地域の魅力を活かした本物の作品の創造・発信事業2　高安薪能特別公演「高安」 ～夕陽と炎が揺蕩（たゆた）う、能楽の幻想世界～	目標値	141	94.0%	（シビック・プライド向上度）アンケートの「内容や取り組みから八尾のまちはいいなあと思った」と感じる人の割合	20%以上	60.70%
		実績値	213 （無料の立見含む数）	142.0%			
公-03	子どもの豊かな育ちを促進する作品の創造・発信および体験格差解消事業1 プロデビュー50周年記念in八尾 大谷康子ヴァイオリンリサイタル with仲道祐子＆相愛ジュニアオーケストラ〈音楽は世界の共通語〉～未来に伝えたい音楽のチカラ～	目標値	750	80.3%	アンケートより公演推奨度	60%以上	NPSスコア／76
		実績値	478	51.2%			
公-04	子どもの豊かな育ちを促進する作品の創造・発信および体験格差解消事業2　子どものための鑑賞公演（学校招待及び一般公演） 人形劇団クラルテ「いえでででんしや」	目標値	810	84.9%	（児童生徒への体験格差解消に向けた機会提供）初めてホールで公演鑑賞をした児童生徒の人数	50名以上	52名
		実績値	733	74.4%			
公-05	日本トップレベルの芸術団体との連携事業1　地域拠点契約事業 文学座公演「華岡青洲の妻」	目標値	250	80.9%	アンケートより公演推奨度	50.0%以上	NPSスコア54.2
		実績値	327 （立見を設定）	100.9%			
公-06	日本トップレベルの芸術団体との連携事業2　地域拠点契約事業 大阪フィルハーモニー交響楽団八尾演奏会　ずっと・もっと～これからも聴きたい音楽愛・地域愛	目標値	1,053	80.0%	アンケートより公演推奨度	60%以上	NPSスコア70.98
		実績値	1,286	98.2%			

令和７年度

劇場・音楽堂等機能強化推進事業

成果報告書

②（評価）

地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業	
団体名	公益財団法人八尾市文化振興事業団
施設名	八尾市文化会館（プリズムホール）
内定額	9,876　　（千円）

（1）各公演事業の自己評価

「成果報告書①（基礎データ・公演事業の実績値等）」に記載の入場者率・評価指標・実績（値）等に言及しつつ、自己評価と自己評定（※1）を記入してください。

（※1）…S～D で記入してください。

※太枠内に記入してください

事業番号	事業名	自己評価
公-01	地域の魅力を活かした本物の作品の創造・発信事業 1 八尾が世界に誇るわがまちオペラ かわち歌しばい『美男におわす八尾地蔵』/落語『地獄八景亡者戯』桂吉弥	＜目標＞入場者 824　入場率 75.3% ＜実績＞入場者 1,021　入場率　92.2% ＜評価指標＞公演推奨度目標　60%以上⇒結果 NPS スコア 45.2 （NPS スコア・・10 点満点中、推奨者（9～10 点）から批判者（0～6 点）の割合を引いたもの、一般的に 30 以上で強い推奨度） ——— 当館のミッション「①地域の魅力を活かした本物の作品の創造と発信ｉ地域の魅力を活かした本物の作品の創造・発信」を目的とし、大阪関西万博が開催された 2025 年にこれまでに 7 回の上演を重ねてきた地域の素材と地元に縁のあるアーティスト・文化団体が多数関わる地域オペラの再演が約 10 年ぶりに実現した。集客は入場率・有料入場率ともに目標を大きく上回った。＜評価指標＞については、目標数値よりも実績数値が下がっているがアンケートで目標設定時には「強く推奨する」＋「推奨する」を回答した人の割合を測定することを前提としていたが、一般的に推奨度測定方法として知名度の高い「NPS スコア」に替えて測定したことによる。NPS スコアでは 30 以上で「強い推奨度」と判定されるため、評価指標においても高い実績値を得ることができた。
公-02	地域の魅力を活かした本物の作品の創造・発信事業 2　高安薪能 特別公演「高安」 ～夕陽と炎が揺蕩（たゆた）う、能楽の幻想世界～	＜目標＞入場者　141　入場率 94.0% ＜実績＞入場者　213　入場率 142% ＜評価指標＞（シビック・プライド向上度）アンケートの「内容や取り組みから八尾のまちはいいなあと思った」と感じる人の割合　目標 20%以上⇒結果 60.7% ——— 当館のミッション①「創造性豊かな本物の作品がもたらす感動と生きる意欲ｉ地域の魅力を活かした本物の作品の創造・発信」を目的とし、地域内外への地元の誇り高い財産である地域発祥の能「高安能」を発信することを目的として、地域の由緒ある式内社にて能公演を行った。演目は「綱」「高安」という地域発祥でありながらもかつて廃絶した曲の復活上演。山の中腹にあり、遠く大阪平野を見渡すことができるロケーションにある神社本殿で複数の重要無形文化財総合指定保持者が出演した。入場者は着席鑑賞が 100%、加えて無料の立見を設定し目標を大きく上回った。また評価指標も目標を大きく上回ることができた。

公-03	子どもの豊かな育ちを促進する作品の創造・発信および体験格差解消事業 1 プロデビュー50 周年記念 in 八尾 大谷康子ヴァイオリンリサイタル with 仲道祐子＆相愛ジュニアオーケストラ〈音楽は世界の共通語〉～未来に伝えたい音楽のチカラ～	＜目標＞入場者　750　入場率 80.3% ＜実績＞入場者　478　入場率 51.2% ＜評価指標＞アンケートより公演推奨度　目標 60%以上⇒結果 76 ——— 当館のミッション「①創造性豊かな本物の作品がもたらす感動と生きる意欲 ⅱ子どもの豊かな育ちを促進する作品の創造・発信」を目的とし、プロデビュー以降日本のクラシック界の第一線で 50 年活躍してきたヴァイオリニスト・大谷康子を迎え、前半では未来の音楽家を目指す大阪の老舗ともいえるジュニアオーケストラ＜相愛ジュニアオーケストラ＞と共演、後半はピアニスト・仲道祐子とのデュオリサイタルを開催した。一般に広く知られているクラシックそして映画音楽もプログラムに入っており、実際鑑賞した観客の評価について、評価指標は（公-1 自己評価欄記載のとおり）NPS スコアは 30 を超えると「強い推奨度」とされるところ実績値 76 ポイントと非常に高い推奨度を得ることができた。鑑賞満足度も 82%であった。反面、鑑賞した人の満足度は高かったものの集客については、今回特に集客を狙っていた子ども層も含めて目標を下回った。相愛ジュニアオーケストラがコンクール上位者を擁し、海外遠征も行うレベルの高いオーケストラであることを地域住民へ伝えられていなかったとも考えられる。
公-04	子どもの豊かな育ちを促進する作品の創造・発信および体験格差解消事業 2　子どものための鑑賞公演（学校招待及び一般公演）　人形劇団クラルテ「いえでででんしゃ」	＜目標＞入場者　810　入場率 84.9% ＜実績＞入場者　733　入場率 74.4% ＜評価指標＞（児童生徒への体験格差解消に向けた機会提供）初めてホールで公演鑑賞をした児童生徒の人数　目標 50 名以上、⇒結果 52 名 ——— 当館のミッション「①創造性豊かな本物の作品がもたらす感動と生きる意欲 ⅱ子どもの豊かな育ちを促進する作品の創造・発信」を目的とし、同名の評価の高い児童文学を原作に、プロの人形劇団クラルテが創造した作品を上演。2 回を市内の小学 5 年生対象の学校公演とし、1 回を一般公演とした。学校公演については、キャパシティーの上限まで鑑賞校を受け入れることができた。ただ、一般公演の集客が難しく、入場者数、有料入場者数とも目標を達成することができなかった。評価指標は達成することができた。また満足度が 90.8%と非常に高い実績値を得ることができたが、演劇・人形劇の創客に課題が残った。
公-05	日本トップレベルの芸術団体との連携事業 1　地域拠点契約事業　文学座公演「華岡青洲の妻」	＜目標＞入場者　250　入場率　80.9% ＜実績＞入場者　327　入場率　100.9% ＜評価指標＞アンケートより公演推奨度　目標 50%以上、結果 54.2 ——— 当館のミッション「①感動と生きる意欲を生み出す本物の作品の創造と発信 ⅲ日本トップレベルの芸術団体との連携」を目的とし、演劇分野で日本のトップレベルの芸術団体である文学座が財産演目と位置付ける作品を上演した。世界初の全身麻酔手術の成功という史実に、華岡家の嫁姑争いを軸としたフィクションを織り交ぜたリアルな人間模様が文学座の高い表現力により描かれた作品を上演し、地域住民が本物の実演芸術作品を鑑賞する機会を提供できた。目標人数を大きく上回る集客ができた（前売完売）他、評価指標結果のとおり（公-1 自己評価欄記載のとおり）NPS スコアは 30 を超えると「強い推奨度」とされるところ 54.2 と高い推奨度と、公演満足度 90.3%という結果を得ることができた。

公-06	日本トップレベルの芸術団体との連携事業 2　地域拠点契約事業 大阪フィルハーモニー交響楽団八尾演奏会　ずっと・もっと～これからも聴きたい音楽愛・地域愛	＜目標＞入場者　1,053　入場率 80.0% ＜実績＞入場者　1,286　入場率 98.2% ＜評価指標＞アンケートより公演推奨度　目標 60%以上、結果結果 NPS スコアとして、70.98 ——— 当館のミッション①「創造性豊かな本物の作品がもたらす感動と生きる意欲 ⅲ日本トップレベルの芸術団体との連携」を目的とし、地域拠点契約を結ぶ大阪フィルハーモニー交響楽団による 36 回目の当館での公演を実施。指揮・宮川彬良氏と大阪フィルは 15 年ぶりの共演でかつ、かって両者の共演で大人気であったポップスオーケストラを実現し、注目を集めることができた。結果、集客は入場率・有料入場率ともに目標を大きく上回った。実際鑑賞した観客の評価について、（公-1 自己評価欄記載のとおり）NPS スコアは 30 を超えると「強い推奨度」とされるところ実績値 70.98 ポイントと非常に高い推奨度を得ることができ、目標は大きく上回って達成できたといえる。

※行が足りない場合は適宜追加してください。

（2）自己評価

評価項目①：創造性・企画性

（※1）…S～D で記入してください。

評価の観点	・（企画力）地域の状況と芸術性とのバランスが取れた、特色ある事業計画である。 ・（制作力）優れたアーティストやスタッフ等が才能や技能を発揮し、高い水準の作品制作や各種事業が行われている。 ・（発信力・影響力）圏域内外の実演芸術を牽引する成果が期待できる。 ・（レジデントカンパニー・アーティスト）当該劇場を創造拠点又は準拠点とする実演芸術団体やアーティストを擁する。	
	・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

	評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
公演事業	・外部メディアの取り上げの数	・120 件以上（ネットメディアの掲載も想定した目標値）	126 件
人材養成事業	①当該事業のアンケート回答者の事業推奨度 ②これらの人材養成事業の受講者が、実際に事業に担い手として携わる。	①60%以上 ②（定性評価として）人材養成事業-4 について実践例を確認する。	①NPS スコアとして　27.5 （10 点満点中、推奨者（9～10 点）から批判者（0～6 点）の割合を引いたもの、一般的に 30 以上で強い推奨度） ②結果：確認した（内容については下記自己評価記述参照）。
普及啓発事業	・当該事業のアンケート回答者の事業推奨度	60%以上	NPS スコアとして　34.5 （10 点満点中、推奨者（9～10 点）から批判者（0～6 点）の割合を引いたもの、一般的に 30 以上で強い推奨度）
共生社会事業			

（※3）・（※4）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、事業類型ごとに太枠内に自己評価を記入してください。

公演事業	
自己評価	令和 7 年度は 6 つの公演事業を実施した。評価指標とした＜外部メディアの取り上げ数＞について、公演事業 1～6 で合計 120 件以上を目標としていたところ、実績は目標をやや上回る 126 件で目標を達成した。新聞紙で 12 件、テレビ 1 件、ラジオ 1 件、他ネットメディアでの掲載であった。地域性の高い公演事業について特に取り上げが多かった。令和 7 年度の公演事業全てが既に関係性のあるアーティストやスタッフ、団体とプロデュースした事業であり、作り手・演じ手が当館やこの地域に対して理解があるという環境にて工夫を凝らした内容に取り組むことができた。

人材養成事業	
自己評価	当館の令和 7 年度人材養成事業のプログラムとして、2 日間舞台スタッフの仕事を体験するステージテクニカルワークショップ、当館の事業全般をサポートする市民サポーターの運営、大学よりインターンシップを受け入れる事業、地域のアートコーディネータ養成講座を実施した。 評価指標＜①当該事業のアンケート回答者の事業推奨度（ＮＰＳスコア）＞は 27.5 ポイントと、一般的に 30 を超えると強い推奨度と判定できるところやや及ばず、公演事業群に比べると推奨度は低い結果となった（ただし、個別事業では推奨度が 100 ポイントの事業もあった）。通年関わりのある事業で事業推奨度が期待や想定よりも低かった。ただし、推奨度が高い値とならなくても事業満足度は 90%を超えている事業もあり、指標の設定の見直しも視野に入れたい。 評価指標＜②（定性評価として）人材養成事業-4 について実践例を確認する＞、について事例として当該養成講座に参加した受講生がその後実践を行った例は次の通り。 地域の多様な場所で展開されるイベント「まちかどライブクリエイション」シリーズにおいて、 ・お寺（八尾市・恵光寺）でのマルシェとステージのイベントにおいて作品の展示 ・大阪・関西万博クラゲ館でのワークショップ開催 ・元料亭（八尾市・山徳）の旧家でのアート展の企画・実施 ・イズミヤショッピングモール八尾店でのマルシェとパフォーマンスイベントの企画・実施 ・TSUTAYA リノアス八尾店で、購入者にオリジナルブックカバーを企画・配付 ・リノアス八尾店での近畿大学学生によるイベントに参画し、学生と一緒に企画・運営

普及啓発事業	
自己評価	令和 7 年度は普及啓発事業として 10 事業を実施。ワークショップや市民参画型のフェスティバルを実施した。評価指標とした＜当該事業のアンケート回答者の事業推奨度＞は公演事業・人材養成事業でも指標としたＮＰＳスコアで全体では 34.5 ポイント、一般的に 30 以上で強い推奨度と判定されることから目標は概ね達成できた。事業別では 10 事業中 5 事業が高い推奨度の判定ライン 30 を大きく上回る 50 ポイントを超えていた。30 ポイントを下回ったのは中学生吹奏楽部を対象とした 1 事業で、ニーズに沿える内容を模索していきたい。

共生社会事業	
自己評価	

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目②：国際性（任意）

評価の観点	・（国際プレゼンスの向上）海外の劇場やフェスティバル、実演芸術団体等と連携し、国際共同制作や海外作品の招聘等に取り組んでいる。 ・（国際交流）アーティストや文化芸術関係者の招聘等、人的交流や情報交換が行われている。 ・（新たな創客への取組）在住外国人や訪日外国人に向けて文化芸術体験の機会を提供する等、グローバルな視座で創客に取り組んでいる。	
	・自由設定の観点（任意）（※２）	

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
・在住外国人や訪日外国人に向けた文化芸術体験への参加機会を促す、または提供する取り組みの数	・6 件以上 ＜R7 の具体的な予定取り組み＞ ・翻訳チラシの作成 4 件（公演 01、普及 04～06） ・外国学生コミュニティへの積極的な鑑賞誘致　1 件（公演-02） ・外国学生コミュニティへのアウトリーチ　1 件（普及-03）	・7 件 ＜R7 の具体的な取り組み＞ ・翻訳チラシの作成 4 件（公演 01、普及 04～06） ・外国学生コミュニティへの積極的な鑑賞誘致　1 件（公演-02） ・外国学生コミュニティへのアウトリーチ　1 件（普及-03） ・児童数 230 人中の半数が在住外国人である小学校へのアウトリーチ 1 件（普及-03）

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	取り組みとしては、想定していた 6 件を上回る 7 件の取り組みができた。本取り組みにより公開事業において前年度より外国人が明らかに増えるという成果までは得られておらず、次年度への課題となった。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目③：地域文化拠点機能

評価の観点	・(文化拠点) 地域の特性やニーズを踏まえ、地域の文化資源を活用するなど、地域の文化拠点として事業が組み立てられている。 ・(地域連携) 地域の関係機関と連携・協力し、地域コミュニティの創生や社会課題の解決等に取り組んでいる。 ・(児童生徒への機会提供) 次代を担う子ども達を対象とした鑑賞や体験事業が行われている。	
	・ホール利用サービス（貸館事業）の向上（任意）（※２）	施設利用者の満足度向上
	・自由設定の観点（任意）（※３）	

（※２）・（※３）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※４）	目標（値）（※５）	実績（値）
①（文化拠点・地域連携・子どもへの機会提供機能の観点として）事業の実施にあたって連携する機関（団体）数	①50 機関（法人・団体・個人）以上 ※申請事業に関係する機関に絞ったため、昨年度より目標値は低くなっています。	①70 機関
②（ホール利用サービス（貸館事業）の向上の観点として） 施設利用者アンケートの利用面の満足度	②85%以上（令和 6 年度実績 84.8%）	②87.3%
③地域ならではの特色を持ったイベント等の施策実施数	③7 件以上 （公演-1、2、普及-2、5、8、9、10 が該当）	③6 件 （公演-1、2、普及-2、5、8、9、10 を想定していたところ、普及-2 が出演者のコロナ感染症発症により中止）

（※４）・（※５）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	評価指標①について、今年度申請事業に絞ってカウントしたが前年度をかなり上回る機関と関わり、地域に密着した事業を展開できた。 評価指標②について、施設利用者のアンケートでの利用満足度も 85%と高い目標値を設定していたが、さらに目標を上回る結果を得ることができた。施設利用料収入についても前年度比で+1,000 万円弱収入増となった。 評価指標③について、地域ならではの特色を持ったイベント等、施策実施について申請事業では 1 件主要出演者の新型コロナ発症により中止としたため目標数には届かなかったが、申請外事業で大阪・関西万博へ地元発祥の高安能・河内音頭の実演やワークショップ、八尾出身作家による展示を当館がプロデュースして実施し、国内外に地元の魅力を伝えることができた。

（2）自己評価

（※1）…S～D で記入すること。

評価項目④：多様性とアクセシビリティ

評価の観点	・（プログラムの多様さ）プログラムの種類や形態が多様で、幅広い観客や参加者に訴求する。 ・（参画者の多様さ）アーティストやスタッフとして参画する人々の属性（性別、年代、居住地、他）が多様である。 ・（アクセシビリティ）障がいの有無や年齢、性差、国籍、居住地、経済的状況等に関わらず、あらゆる人々と実演芸術をつなぐため、施設の構造・設備上の配慮、プログラム上の創意工夫やサポート、アウトリーチ等が行われている。
・自由設定の観点（任意）（※2）	

（※2）…R 7 年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※3）	目標（値）（※4）	実績（値）
①（プログラムの多様さ）公演事業における子ども、障がい者、外国人の参加者数	①700 人以上（公演によって、「障がい者」「子ども」券種が分かれていない事業がありましたので、ジャンル分けのカウントが不能でした）	①963 人
②（プログラムの多様さ）普及啓発事業における子どもの参加者数	②2,300 人以上（アウトリーチ・インリーチ）	②2,785 人
③（プログラムの多様さ）普及啓発事業におけるカウント可能な障がい者の参加者数	③20 人以上（普及啓発事業のみ名簿や目視でカウント）	③93 人
④（プログラムの多様さ）普及啓発事業におけるカウント可能な外国にルーツのある人の参加者数	④50 人以上（普及啓発事業のみ名簿や目視でカウント）	④140 人
⑤（アクセシビリティへの工夫として）あらゆる人々と実演芸術をつなぐための創意工夫の取り組み数（多言語対応を除く取り組み、多言語対応は国際性の観点の目標として設定）	⑤15 件以上	⑤18 件 R7 算出根拠 UNI-Voice、誘導員配置、点字チラシの作成（八尾地蔵）3 件 アウトリーチ数　7 校 リズム@プリズム（社会包摂を前提とするワークショップ）8 回でカウント

（※3）・（※4）…R 7 年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	全体的に評価指標の目標数を上回ることができた。取り組みの方向性は現状を維持しつつ、改善すべき点を見つけていきたい。評価指標④は目標値の 3 倍近い実績が得られている。これは学校アウトリーチで訪問したうちの 1 校がベトナム人コミュニティのある地域の学校であり、近年児童の半分が外国人居住者家庭の子どもであったことから実績値が高くなったことによる。全体的には評価項目②（国際性）に記載のとおり、地域に居住する外国人に向けた参加を促す取り組みを受けて明らかに外国人参加者が増えた、という結果は得られず、今後の課題と認識している。

（２）自己評価

（※１）…S～D で記入すること。

評価項目⑤：自由設定（任意）

評価の観点	①　創造性・企画性、②国際性、③地域文化拠点機能、④多様性とアクセシビリティ、⑥運営体制と持続可能性　の項目では成果や課題に言及しきれない事柄について、自己評価を行ってください。（※２）
	当館のミッション （1）創造性豊かな本物の作品がもたらす感動と生きる意欲 （２）つながりと交流がもたらす生き生き市民社会 （３）地元（まち）の魅力でシビック・プライドを醸成　のうち、（３）ミッション実現のための観点

（※２）…R７年度評価補助シートにて設定している場合は転記すること。

評価指標（※３）	目標（値）（※４）	実績（値）
・シビック・プライドの向上度として、ミッション「地元（まち）の魅力でシビック・プライドを醸成」実現のための事業のアンケートで、参加した影響として「八尾のまちはいいなあと思った」の選択率	・25%以上（R6 年度実績が約 20%）	・33.5%

（※３）・（※４）…R７年度評価補助シートから転記すること。

・評価指標と目標（値）及びその達成度に言及しながら、太枠内に自己評価を記入してください。

自己評価	評価指標の対象とした事業は、普及啓発事業 7＜吹奏楽クリニック＞、普及啓発事業 8＜こども河内音頭講座＞2，普及啓発事業 9＜第 37 回八尾市吹奏楽フェスティバル＞、普及啓発事業 10＜河内音頭やおフェスタ＞で、9・10 は地域住民が出演している。実績値は、昨年度以前の比較対象をかなり上回っておりこれら事業を通じて参加者のシビック・プライドが醸成できたと認識している。

（2）自己評価

その他：エピソードやグッドプラクティス事例について

助成対象事業に関連して、心に響くような印象的な出来事や、他館の参考になるような好事例があれば、具体的にご記入ください。

・公演事業 1＜八尾が世界に誇る わがまちオペラ かわち歌しばい『美男におわす八尾地蔵』/落語『地獄八景亡者戯』桂吉弥＞は、1993 年の初演時から多様性を認めあうことをテーマのひとつとしており、今回の鑑賞者アンケートでは本テーマへの共感を示す感想が多く見受けられた。

・公演事業 2 ＜高安薪能 特別公演「高安」～夕陽と炎が揺蕩（たゆた）う、能楽の幻想世界～＞は当館と特定非営利活動法人高安能・カエパスとが協働で企画している。高安能・カエパスは、これまで八尾を舞台とした復曲能「高安」の 300 年ぶりの上演や歴史講座の開催、本事業＜高安薪能＞を毎年企画上演してきており、令和 7 年度には大阪・関西万博において体験事業の実施と、八尾の古墳に眠る伝説をもとに復元された能「綱(つな)」の特別公演を行い、日本のみならず、世界のさまざまな地域から来場された満員の観客に対し八尾市を広く発信した功績により、令和 7 年度団体として＜八尾市文化賞＞を受賞した。令和 8 年度は劇場・音楽堂等機能強化推進事業にも申請・採択を受け、聖徳太子と物部守屋の崇仏戦争を描く八尾にゆかりのある演目「守屋（仮称）」の復曲公演に向けて当館と準備を進めている。

・人材養成事業 2＜大学連携事業～プリズム発・芸術文化で未来にはばたく～＞に参加した樟蔭女子大学の学生による当該インターンシップの成果発表が学内で最優秀賞を受賞した。学生たちが八尾市文化会館を PR するための方法を自ら企画し PR 動画として形にしたプログラムが有意義であったことが受賞につながったようである。

・人材養成事業 3＜プリズム市民サポーター活動～つながり、交流、生き生き活動！プリズムパートナー～＞では、ボランティア市民が自主的に「ボラ広場」という活動記録を定期的にまとめており、当館にも共有されている。活動記録の中では当館でのサポーター活動に対する各自の意見交換が活発に行われている。公演事業 6＜大阪フィルハーモニー交響楽団八尾演奏会＞でも指揮・宮川彬良氏のインタビューに同行し、その成果を公演時に貼り出ししたところ来場者に好評を博していた。これらの活動の充実により、新規加入希望者が増加している（令和 7 年度 3 名⇒令和 8 年度 6 名)。

・普及啓発事業 8＜こども河内音頭講座　①唄・楽器の講習会　②踊り方講習会＞に参加し、＜八尾のこども河内音頭大使＞として活動している子どもたちは、大阪・関西万博に 2 度参加し、八尾市を PR した。ステージでの唄い手は時間枠の都合で 3 名しか選出することができず、内部オーディションで唄い手の選考を行った際、3 名の枠に対して 30 名がオーディションを受けることを希望し、少ない出演枠を競い合った。結果、大使全体のレベルの向上につながった。選出された 3 名のこどもは灼熱の万博ステージで多数の観客を前に立派に唄いきった。踊り体験コーナーでは大阪府の吉村知事と踊りで交流し、子どもたちの良い記念となった。

・普及啓発事業 9＜第 37 回八尾市吹奏楽フェスティバル＞では、高校生と社会人有志による合同演奏で宮川彬良氏に委嘱し平成 27 年度に＜吹奏楽のまち八尾＞を象徴する曲として作曲された「吹奏情話，八尾」を演奏した。「吹奏情話，八尾」は作曲以来 10 年に渡って市民の手により演奏が続いている。令和 7 年度は公演事業 6＜大阪フィルハーモニー交響楽団八尾演奏会＞の指揮として 10 年ぶりに当館に宮川氏が登場することをきっかけとして「管弦楽版・吹奏情話，八尾」を新たに編曲、初演し、大好評であった。

（2）自己評価

評価項目⑥：運営体制と持続可能性

（※1）・（※2）…R7年度評価補助シートから転記すること。
※太枠内に記入してください

○「実現性」の項目より〈(ア）～（エ)〉

評価の観点	（ア）多様な財源の確保 予算計画が妥当であり、事業収入のほか、各種助成金や寄附金・協賛金等の獲得に努めている。	（イ）広報・営業力 広報計画が充実しており、券売や集客、会員制度等の拡充に努めている。
現状（※1）	令和 6 年度の芸術文化事業への協賛金の制度（子ども向け）を試行した。	ネットでの広報について昨年度 SNS 広告に着手し、今後費用対効果を検討する必要がある。また、会員制度について今後の方針について検討をする。
目標(値)（※2）	令和 6 年度の試行実施を受けて令和 7 年度は、協賛金の対象とする事業を増やし、制度内容を改善する。	SNS 広告の使用の対象とする事業数を増やし、効果検証をする。会員制度については検討チームを立ち上げる。
実績(値)	八尾市文化会館プリズムホール こどもの笑顔応援プロジェクト R6 年度実績　1 事業　 93,000 円 R7 年度実績　3 事業　108,000 円	SNS 有料広告は、3 事業で実施。SNS 有料広告費総額 54,076 円に対して、リーチ 66,091 件（1 件につき費用 0.82 円）うち、リンククリック 4,560 件（6.9%）。 また、友の会再構築チームを立ち上げ、様々な視点から、制度に関して検討をおこなった。
団体の自己評価	協賛者はある程度固定していることもあり、目標金額である 120,000 円には届かなかった。しかしながら、取組の注目度は高く、このプロジェクトが市民に浸透しているように思う。 鑑賞者の応募も一定数あるが、無料招待であることから、当日キャンセル等もあり、頂戴したお金をうまく活用できるよう、方法を再検討していきたい。	SNS 広告の具体的な結果を見ていくためには、アンケート「情報取得ルート」の選択肢に追加するなど具体的対応が必要であるので、検討する。 また、友の会については、会員特典の見直しを行うよりも、無料で情報を届ける人数を増やす方法をまず検討することになり、令和 8 年 4 月より、公式 LINE アカウントの運用を開始した。 1 年間の効果を検証し、次に繋げていきたい。

評価の観点	（ウ）他館連携 他の劇場・音楽堂等との事業連携や協力・支援を通じて、効果的で効率的な事業運営を行っている。	（エ）設置者 円滑な事業の継続のため設置者と適切に意思疎通を図っており、設置者による人材や財源の確保等が期待できる。
現状（※1）	広報協力、運営や事業実施に関する意見交換相談などを行っている。	定例・臨時会議の実施、および双方の催しの機会に参加し合うなど、担当課との意思疎通は非常に良好。
目標(値)（※2）	上記に加えて、今後芸術文化事業実施の連携を検討する。	人材と財源の確保は、市の行革・財政に交渉する必要があり、職員等人件費上昇、フリーランス新法による委託費上昇等々、各種の資料を提供して適切な運営費の確保に努める。
実績(値)	当館が属している大阪府の東部大阪地区の会館間では、トラブルが起こった際の対処方法や所管課（市）の対応内容等を共有し、指定管理者としてより良い対応ができるよう情報交換を行っている。 また、可児市文化創造センターとの連携事業を令和8年度に実施すべく、令和7年度から準備を進めているなど、事業面での連携もできている。	令和 3 年度から今期の指定管理期間となっていることから、指定管理料にコロナによる稼働率の低下分の金額（利用料金制のため収入の減少に直結)、人件費や光熱費、その他すべての物価の高騰に対応できていなかった。 そのため、財政課等に納得してもらえる根拠資料を作成して、根気強く市に交渉をおこない、事業団算出の想定不足額の半額近くの指定管理料を補填してもらうことに成功した。
団体の自己評価	運営面、事業面の両方において、うまく連携できている。今後もこの関係性を継続していきたい。	市との適切な意思疎通をまめにおこない、担当課職員に会館側の問題点を“自分事”として考えてもらえる関係性を構築できているからこその結果と考える。

○「持続可能性に関するチェックシート」より〈(オ）～（セ)〉

評価の観点	（オ）芸術監督 芸術監督等、劇場運営の芸術面を統括する人材が配置されている。	（カ）長期的経営 長期的視点に立ち、劇場運営を統括する、経営実務者が配置されている。
現状（※1）	芸術面を統括する役割は現在館長が担っている（制作出身・演劇等の専門分野で他機関の評価・審議の経験多数)。舞台技術面においても専門職の舞台長を配置。	劇場運営を統括する経営実務は、事務局長（館長兼務）が担う。長期の実務経験と体系的な経営知識（MBA）を保有している。
目標(値)（※2）	暗黙知化している当館の劇場運営における芸術面を統括する職能の文書化に努める。	暗黙知化している当館の劇場運営を統括する経営実務者の職能の文書化に努める。
実績(値)	文書化ならびに後進への引き継ぎなどを実施した。	文書化ならびに後進への引き継ぎなどを実施した。
団体の自己評価	令和8年度より、館長を兼務していた事務局長が、事務局長専任になることにより、新館長（総務のスペシャリスト）と企画制作課長で担当する業務を適切に分担した。その統括を幅広い知識の元、事務局長が行うという理想的な形に移行することができた。 また、舞台技術面は、舞台長が年度途中で休職することとなったが、その業務を副舞台長が補完している。舞台利用者のアンケートでの 100%の満足度を継続できている。	後進への引き継ぎを行い、令和 8 年度から新館長を立てたことにより、忙しい館長業務から多少は開放され、劇場運営を経営的視点で見ていく時間を作ることができた。

評価の観点	（キ）専門人材の確保 今日的な劇場運営に必要な職能や専門性を踏まえ、運営体制が整備されている。あるいは専門人材の確保や育成に努めている。	（ク）職制の整理 芸術監督、館長、支配人、プロデューサー、その他管理職の職位及び職能、一般職員の職務内容等が専門性を基に整理され、役割分担されている。
現状（※1）	求められる人材像の職能は職務・職層毎の人事評定項目で整理できている。	評定項目で一定整理できている。一部、専門性に基づいた整理をし切れていない。
目標(値)（※2）	左記の評定項目を踏まえつつ、運営体制強化に必要な運営上のガバナンスの再構築を目指し、そのうえで職員育成を進める。	より精査した、明確な職務内容へと検討を進める。
実績(値)	令和7年度も全職員に対し実施した人事評定では、当事業団が求める「人財」に必要な評価項目の達成状況を、自己の評定から複数の上席の評価により数値化及び文章化した。年度末の総括評定者からの面談では、良い点は褒め伸長を促し、反面、改善点については事象など具体例を伝えることで職員個々の能力向上に努めた。	当事業団の組織は総務課・企画制作課（企画制作／お客様窓口）・舞台事業課の三課4セクションで構成され、それぞれの課にて管理職、監督職、一般職を配置しており、決裁などの業務権限や役割分担はそれぞれの職域に対応している。しかし、余剰人員のない中での館の運営もあり、複数の管理職職員が管理職の兼務をおこなう、また一部監督職の配置ができていない課があった。
団体の自己評価	人事評定については度々細かな修正や調整を加えているが、基本的な実施方法は長年変わっていない。これは、経年による個々人の評価の変遷も見られることに意味があるが、より職員のモチベーションを高める効果的な事例が無いか、他の組織の例も参考にし、検討したい。	令和 8 年度から新任の館長が総務系管理職であるため、企画制作業務に係る決裁事項の権限移譲など、令和7年度から整理を行った。また、一部の監督職不在の問題は職員 1 名の監督職昇格により解消した。今後も、組織体制構築のため、業務責任区分の明確化も含めた人員配置を検討していく。

評価の観点	（ケ）世代間バランス 年齢バランスを考慮した人材確保を行っている（若年層の雇用に努めている）。	（コ）ジェンダーバランス 女性管理職比率が 30%以上である。あるいは、女性の管理職やリーダー職への登用に努めている。
現状（※1）	行っている。令和5年度に4人(全体の約20%)の新人（22～26歳）を採用した。男女2人ずつで比率50%。	管理・監督職における女性比率は50%（女性5名、男性5名）。
目標(値)（※2）	欠員補充時など可能な限り若年層の採用を進め、世代間バランスを保つ。	状況によって変化しがちであるジェンダーバランスの均衡に努める。
実績(値)	令和 7 年度期中、適正人員数であり、欠員補充はおこなわなかった。	管理・監督職における女性比率は50%（女性5名、男性5名）であり、均衡に努めた。
団体の自己評価	年齢構成のバランスとしては問題ないと考える。しかし、近い将来定年等により退職者が出る。欠員補充時には、キャリア形成を視野に入れ、若年層の職員を雇用したい。	管理・監督職への任用は、ジェンダーバランスをはじめ、様々な視点により組織運営するためにも重要と考える。 今後も念頭に置き、人員を配置したい。

評価の観点	（サ）ワークライフ・バランス 仕事と育児･介護等の両立支援制度を整備し、推進している。	（シ）コンプライアンス順守 情報セキュリティをはじめ、各種コンプライアンスの順守規定を策定し、必要な研修を行っている。
現状（※1）	法に定める支援制度は導入しており、活用している（育児時短制度、現在２名）。	各種コンプライアンスの順守規定を策定し研修を行っている。
目標(値)（※2）	ワークライフ・バランスを促進する制度を実施する。	コンプラ研修の機会が事業・実務研修等実施数に比して少ないため、意識の低下に至らぬよう強化を検討する。
実績(値)	令和 7 年度、育児短時間勤務制度を活用した職員は２名であった。 なお、介護等については要件に該当し、活用する職員はいなかった。	令和 7 年度においても朝礼時など職員が参集する機会を活用し、個人情報保護方針や規定の読み上げを行うことで個人情報等保護の意識を高めた。 また、職員の懲戒処分としての非違行為とこれに対する懲戒の内容などの基準整備をおこなった。
団体の自己評価	育児･介護休業等の制度整備により、仕事と育児の両立支援が行える環境の整備に努めることができた。	組織運営のために求められる労働基準法等の法律や、館の管理運営のための消防法や個人情報保護法等の法律は改正が無いか特に注意しており、情報収集のうえ適切に対応、コンプライアンス違反にならないよう努めている。

評価の観点	（ス）ハラスメント防止対策 職場内及び創作現場におけるパワー・ハラスメント、セクシュアル･ハラスメント等防止のための指針等を策定・周知し、必要な研修を行っている。	（セ）適正な契約事務 アーティストやスタッフと適正な契約書を交わしている。
現状（※1）	就業規則に各種ハラスメントの禁止等規定を設け、定期的に確認し、浸透を図っている。全国公立文化施設協会等による研修を受けて知識の更新を行っている。	全国公文協の研修を受け、契約書様式を見直し必要項目の追加など行った。
目標(値)（※2）	ハラスメント研修の機会が事業・実務研修等実施数に比して少ないため、意識の低下に至らぬよう強化を検討する。	フリーランス新法など、進む法整備と齟齬がないように情報を取り入れ更新していく。また過度な事務負担とならないよう、案件により簡素化も検討する。
実績(値)	令和８年１月制定、同年４月１日施行にて、職場におけるハラスメント防止等に関する要綱とその取扱指針を制定した。	今年度の契約に関しては、問題無く実施できた。
団体の自己評価	職場での各種ハラスメント防止のための研修は、制定した要綱や基準に基づき、全職員に対し研修動画の視聴をしてもらうこととしている。また、今後相談窓口担当者 4 名の選任、担当者への研修も含めた相談窓口の整備をおこなっていく。なお、令和 8 年度には専門外部講師による対面研修の実施も検討中である。	フリーランス新法で定められている支払いの期限の順守など、チェックポイントを漏らすことなく契約書を交わすことができた。

（3）総評

※太枠内に記入してください。

団体の自己評価
＜総括＞ ・当館の基本理念およびミッション実現のため、個々の芸術文化事業を企画・展開した。これにより、ビジョンである「生きる意欲をもって誰もがかがやける社会、地元の魅力にあふれ、つながりとやさしさで包まれる社会の実現」に向け、おおむね当初の目標を達成することができた。 ・今年度は、55 年ぶりに大阪で万博が開催される特別な年であり、万博を軸にイベントを行った年であった。 ＜公演事業＞ ・ミッション（1）の感動と生きる意欲をもたらすものとして、公演事業-01～06 の 6 事業を実施した。日本トップレベルとの連携の 2 事業(公-05 及び 06)に加え、子どもの豊かな育ちを促進する 2 事業(公-03 及び 04)においては、青少年の体験格差解消にも大きく寄与できた。 ・また、「八尾ならでは」の地域の魅力を活かした作品として 2 事業（公-01 及び 02）を実施した。この事業はいずれも「大阪・関西万博」の開催の年に合わせて企画した事業で、一流のアーティストがコテコテの河内弁で謡う完全オリジナルオペラ公演や、万博閉幕の日に合わせて、地元八尾が舞台である復曲公演「高安」の特別公演を、能「高安流」の発祥の地とされる地元の神社で実施するなど、多くの人に八尾の魅力を存分に味わってもらうことが出来た。 ＜人材養成事業＞ ・ミッション（1）の感動をもたらす人材を養成する事業として、人材養成事業-01～04 の 4 事業を実施した。 ・今年度から実施に参画したアートコーディネータ養成講座（人-04）では、大阪・関西万博クラゲ館でワークショップを開催するなど、八尾を飛び出し、八尾の魅力を国内外に発信する人材を養成することができた。 ＜普及啓発事業＞ ・ミッション（1）の舞台の感動を普及・啓発する事業（1 事業中止）やミッション（2）の子どもの社会課題の解消に向けた事業、共生社会の実現事業、ミッション（3）の地元（まち）の魅力を次世代へ普及、発見・発信する事業として、普及啓発事業-01～10 の 10 事業を実施した。 ・八尾が誇る人間国宝、吉田玉男氏が直々に子どもたちにレクチャーする文楽のワークショップや、「吹奏楽のまち 八尾」を発信する事業、さらには、万博の舞台でも踊った河内音頭など、これらの事業でも八尾の魅力を十分に普及することができた。 ・さらに、子どもの体験格差解消に向けた事業や「誰でも楽しくエクササイズ」できる「リズム@プリズム」の実施など、「共生社会の実現」に寄与できた。なお「リズム@プリズム」は令和 8 年度劇場音楽堂等機能強化推進事業の要望時には次年度に継続実施するかを検討中であったため令和 8 年度は申請外事業としているが、令和 7 年度の成果を受けて令和 8 年度も継続して実施する。 ＜運営面＞ ・令和元年度末以降のコロナや、令和 3・4 年度の改修休館（指定管理料に人件費の十分な計上なし）の影響で長く続いた赤字決算を、今年度ようやく抜け出すことができた。長年の交渉により市から補填があったことや、貸館の稼働率を向上させる取り組みをしている「貸館関係収益向上検討プロジェクトチーム」の活動の効果が表れてきた証拠である。 ・令和 8 年度から、助成金の事業類型に「共生社会事業」が追加されたが、会館の運営面においても「誰もが芸術文化につながり交流できる場を創出」して「共生社会の実現」が達成できるよう、ハード面、ソフト面ともに、細かい面も怠らず対応をしていきたい。

備考